

■防災について

本資料では、今後、想定される自然災害の発災・被災時に、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）に整備する本庁舎が災害対策の拠点として機能するかを検証します。

1. 現在地と深沢地域整備事業用地（行政施設用地）において想定される自然災害

現在地及び深沢地域整備事業用地（行政施設用地）において想定される自然災害を「1）地盤」、「2）土砂災害」、「3）津波による浸水」、「4）洪水による浸水」、「5）内水氾濫による浸水」の5つの視点から示します。なお、各視点の検証に用いた資料等は、下表のとおりです。

※高潮について：神奈川県では「相模灘沿岸では、沿岸市町と連携し、平成30年度から検討に着手、早期の検討結果公表、区域指定等を目指す」としていることから、本項目に含めていません。（参考：現在地は由比ガ浜より約1km、深沢地域整備事業用地は七里ガ浜より約3kmほど直線距離で離れています。）

表 想定される自然災害の視点

視点	検証に用いた資料
1) 地盤	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化危険度マップ（出典：e-かなマップ（神奈川県地震被害想定調査報告書（平成27年3月神奈川県）（地震防災マップ）と同じもの）） ・液状化想定マップ（出典：かまくら防災読本（平成26年2月鎌倉市発行）） ・地盤調査結果（出典：鎌倉市役所本庁舎液状化発生有無調査業務委託報告書（平成27年9月鎌倉市）及び深沢地区事業化推進検討業務（その2）委託報告書（平成24年3月鎌倉市））
2) 土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市土砂災害ハザードマップ（平成24年2月鎌倉市）（かまくら防災読本掲載）
3) 津波による浸水	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県津波浸水想定図（平成27年3月神奈川県） ・鎌倉市津波ハザードマップ（平成25年3月鎌倉市）（かまくら防災読本掲載）
4) 洪水による浸水	<p><現在地：対象河川：滑川></p> <ul style="list-style-type: none"> ・滑川水系滑川浸水想定区域図（平成21年7月24日神奈川県告示第351号、見直し前※1） <p><深沢地域整備事業用地（行政施設用地）：対象河川：境川水系柏尾川（特定都市河川※2、流域は特定都市河川流域※2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・境川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（平成30年1月26日神奈川県告示第44号、見直し済）
5) 内水氾濫による浸水	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市洪水・内水ハザードマップ（平成22年3月鎌倉市）（かまくら防災読本掲載）

※1 神奈川県洪水浸水想定区域図の見直し：平成27年の水防法改正に伴う洪水浸水想定区域図の見直しの状況。

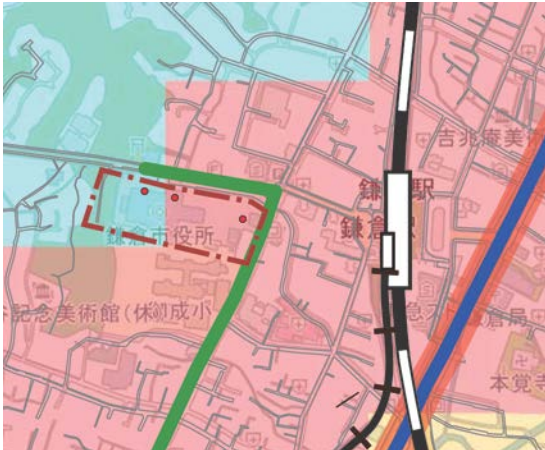
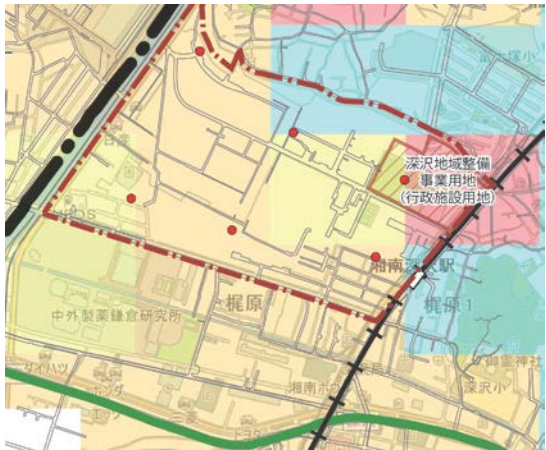
※2 特定都市河川及び特定都市河川流域：都市部を流れる河川の流域において、浸水被害対策を進める必要がある河川及びその流域を特定都市河川浸水被害対策法（平成15年制定）に基づき指定するもの。指定により、浸水被害対策の総合的な推進のための流域水害対策計画の策定、河川管理者による雨水貯留浸透施設の整備その他の措置を定めることにより、特定都市河川流域における浸水被害の防止のための対策の推進を図り、もって公共の福祉の確保に資することを目的としている。境川水系柏尾川は、平成26年2月14日神奈川県告示第75号により、特定都市河川及び特定都市河川流域に指定された。

1) 地盤

e-かなマップの液状化危険度マップによると、現在地及び深沢地域整備事業用地（行政施設用地）ともに、液状化の危険度が示されています。

地盤調査の結果では、現在地は敷地の一部（敷地中央付近）で液状化の影響（地表面で4 cm 程度の沈下）が考えられると指摘されています。また、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）は、液状化の可能性はないと判定されています。

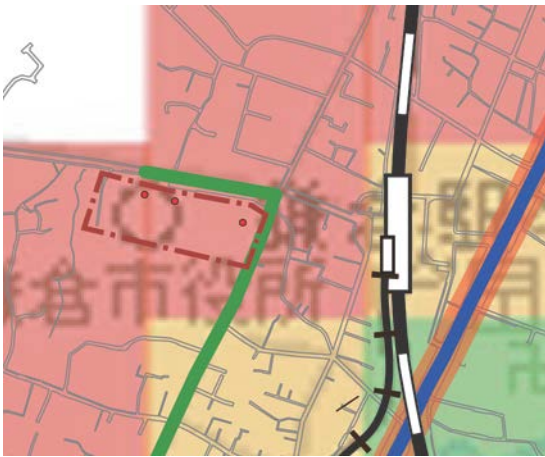

表 地盤について①（e-かなマップ）

現在地	深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)																				
<p>【液状化危険度マップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地の一部に「液状化の危険度が高い」と想定されている。 <p>【地盤調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内の一部で液状化の影響（4 cm 程度の沈下）が地表面まで及ぶことが考えられるとされている。 	<p>【液状化危険度マップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地の一部が「液状化の危険度が高い」と想定されている。 <p>【地盤調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政施設用地内（泣塔の南側付近）で、液状化の可能性はないと判定されている。 																				
<p>液状化危険度マップ</p>  <table border="1" data-bbox="276 1512 531 1736"> <tr><td>高い</td><td>赤</td></tr> <tr><td>やや高い</td><td>オレンジ</td></tr> <tr><td>普通</td><td>黄緑</td></tr> <tr><td>やや低い</td><td>緑</td></tr> <tr><td>低い</td><td>青</td></tr> </table> <p>● 地盤調査位置</p>	高い	赤	やや高い	オレンジ	普通	黄緑	やや低い	緑	低い	青	<p>液状化危険度マップ</p>  <table border="1" data-bbox="850 1512 1106 1736"> <tr><td>高い</td><td>赤</td></tr> <tr><td>やや高い</td><td>オレンジ</td></tr> <tr><td>普通</td><td>黄緑</td></tr> <tr><td>やや低い</td><td>緑</td></tr> <tr><td>低い</td><td>青</td></tr> </table> <p>● 地盤調査位置</p>	高い	赤	やや高い	オレンジ	普通	黄緑	やや低い	緑	低い	青
高い	赤																				
やや高い	オレンジ																				
普通	黄緑																				
やや低い	緑																				
低い	青																				
高い	赤																				
やや高い	オレンジ																				
普通	黄緑																				
やや低い	緑																				
低い	青																				

地盤調査結果については、資料の最後に参考（抜粋）として添付しています。

かまくら防災読本の液状化想定マップ（かまくら防災読本作成当時の e-かなマップ情報）によると、現在地は液状化の可能性が極めて高いと想定されており、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）では、「液状化の可能性が高い」、「液状化の可能性が低い」及び「液状化の可能性がない」が混在しています。

表 地盤について②（液状化想定マップ）

現在地	深沢地域整備事業用地 （行政施設用地）
<p>【液状化想定マップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「液状化の可能性が極めて高い」と想定している。 	<p>【液状化想定マップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「液状化の可能性が高い」、「液状化の可能性が低い」、「液状化の可能性がない」と想定している。
<p>液状化想定マップ</p>  <p> 可能性が極めて高い 可能性が高い 可能性が低い 可能性が極めて低い なし 地盤調査位置 </p>	<p>液状化想定マップ</p>  <p> 可能性が極めて高い 可能性が高い 可能性が低い 可能性が極めて低い なし 地盤調査位置 </p>

2) 土砂災害







①土砂災害警戒区域

鎌倉市土砂災害ハザードマップによると、現在地では、敷地の本庁舎の中庭より西側の付近、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）では、敷地の北西側の角付近の一部がそれぞれ土砂災害警戒区域^{※3}に指定されています。

②急傾斜地崩壊危険区域

鎌倉市土砂災害ハザードマップによると、双方ともに急傾斜地崩壊危険区域^{※4}に指定されていません。

表 土砂災害の想定（鎌倉市土砂災害ハザードマップ）

現在地	深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)
<p>【土砂災害警戒区域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地の本庁舎の中庭より西側の付近が指定されている。 <p>【急傾斜地崩壊危険区域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし。 	<p>【土砂災害警戒区域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地の北西側の角付近の一部が指定されている。 <p>【急傾斜地崩壊危険区域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定なし。
<p>鎌倉市土砂災害ハザードマップ</p>  <p>  土砂災害警戒区域  急傾斜地崩壊危険区域 </p>	<p>鎌倉市土砂災害ハザードマップ</p>  <p>  土砂災害警戒区域  急傾斜地崩壊危険区域 </p>



※3 土砂災害警戒区域：急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域（傾斜地の形態により、一律に指定されるもの）であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

※4 急傾斜地崩壊危険区域：急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

3) 津波による浸水

神奈川県津波浸水想定図によると、現在地における、津波による浸水の想定は、敷地の南東側に立地する第3分庁舎付近で「0.01m以上 0.3m未満」、「0.3m以上 1.0m未満」及び「1.0m以上 2.0m未満」が混在しています。また、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）では、津波による浸水の想定はありません。

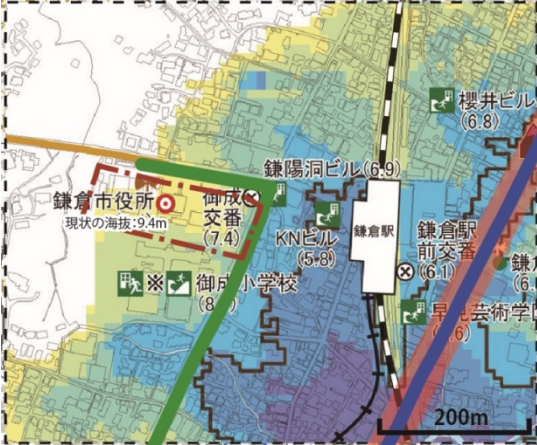

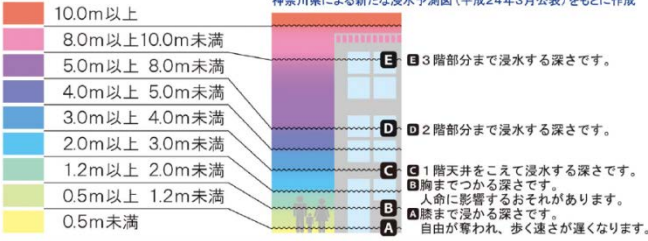
表 津波による浸水の想定（神奈川県津波浸水想定図※5）

現在地	深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)															
<p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3分庁舎付近で「0.01m以上 0.3m未満」、「0.3m以上 1.0m未満」及び「1.0m以上 2.0m未満」が混在している。 参考：今小路通りは1.0～2.0m未満 由比ガ浜海岸への津波の到達時間は最短で14分（相模トラフ沿いの海溝型地震（西側））、最長で77分（慶長型地震）と想定されている。（現在地及び現在地至近に浸水がおよぶ想定地震による津波浸水予測） 参考：他の地震による津波浸水予測では、由比ガ浜海岸への最短到達時間は8分である。 	<p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波による浸水は想定されていない。 															
<p>神奈川県津波浸水想定図</p>  <p>(参考) 海拔は9.4m</p>	<p>神奈川県津波浸水想定図</p>  <p>(参考) 海拔はおおよそ9～10m（造成後10～11.1m）</p>															
<table border="0"> <tr> <td data-bbox="287 1736 558 1769">0.01m 以上 0.3m 未満</td> <td data-bbox="582 1736 853 1769">4.0m 以上 5.0m 未満</td> <td data-bbox="973 1747 1388 1792">— 建設中 — 第1次緊急輸送道路</td> </tr> <tr> <td data-bbox="287 1780 558 1814">0.3m 以上 1.0m 未満</td> <td data-bbox="582 1780 853 1814">5.0m 以上 10.0m 未満</td> <td data-bbox="973 1803 1388 1848">— 建設中 — 第2次緊急輸送道路</td> </tr> <tr> <td data-bbox="287 1825 558 1859">1.0m 以上 2.0m 未満</td> <td data-bbox="582 1825 853 1859">10.0m 以上 20.0m 未満</td> <td data-bbox="973 1870 1388 1915">— 緊急交通路指定想定路</td> </tr> <tr> <td data-bbox="287 1870 558 1904">2.0m 以上 3.0m 未満</td> <td data-bbox="582 1870 853 1904">20.0m 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="287 1915 558 1948">3.0m 以上 4.0m 未満</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		0.01m 以上 0.3m 未満	4.0m 以上 5.0m 未満	— 建設中 — 第1次緊急輸送道路	0.3m 以上 1.0m 未満	5.0m 以上 10.0m 未満	— 建設中 — 第2次緊急輸送道路	1.0m 以上 2.0m 未満	10.0m 以上 20.0m 未満	— 緊急交通路指定想定路	2.0m 以上 3.0m 未満	20.0m 以上		3.0m 以上 4.0m 未満		
0.01m 以上 0.3m 未満	4.0m 以上 5.0m 未満	— 建設中 — 第1次緊急輸送道路														
0.3m 以上 1.0m 未満	5.0m 以上 10.0m 未満	— 建設中 — 第2次緊急輸送道路														
1.0m 以上 2.0m 未満	10.0m 以上 20.0m 未満	— 緊急交通路指定想定路														
2.0m 以上 3.0m 未満	20.0m 以上															
3.0m 以上 4.0m 未満																

※5 神奈川県津波浸水想定図：神奈川県では、神奈川県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される9つの地震を対象とし、平成27年2月27日に本県の沿岸地域における「津波高さ」または「浸水域」が最大となる、合計5つの地震による「津波浸水予測図」を公表した。これらの津波浸水予測図を基に、「浸水域」と「浸水深」が最大となるよう重ね合わせた図面（津波浸水想定図）を作成している。

鎌倉市津波ハザードマップによると、現在地では、津波による浸水の想定は、敷地の大半が「0.5m未満」であり、敷地の南側は「0.5m以上1.2m未満」、東側（今小路通り付近）は「1.2以上2.0m未満」となっています。深沢地域整備事業用地（行政施設用地）では、津波による浸水の想定はありません。

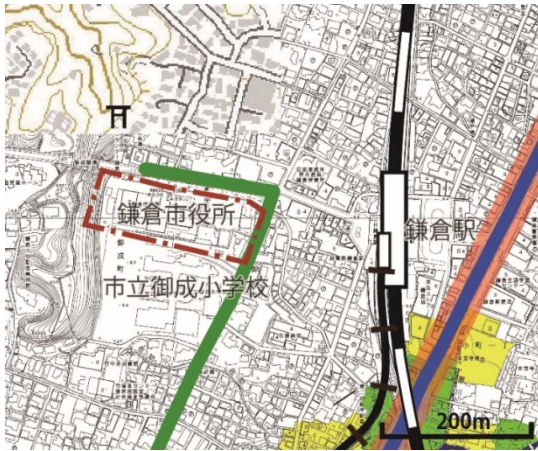
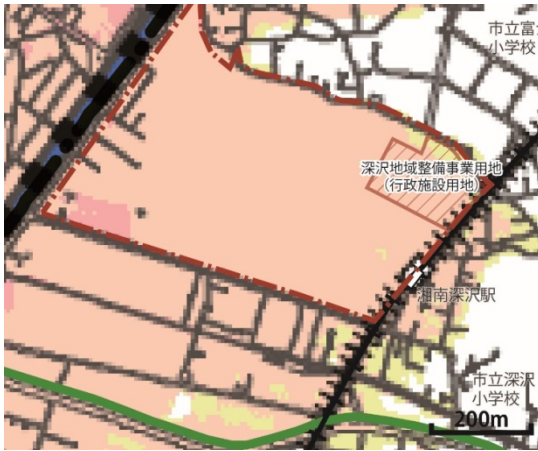
表 津波による浸水の想定（鎌倉市津波ハザードマップ）

現在地	深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)
<p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地の大半が「0.5m未満」であり、敷地の南側は「0.5m以上1.2m未満」、東側（今小路通り付近）は「1.2以上2.0m未満」と想定している。 	<p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波による浸水は想定していない。
<p>鎌倉市津波ハザードマップ</p>  <p>(参考) 海拔は9.4m</p>	<p>鎌倉市津波ハザードマップ</p>  <p>(参考) 海拔はおおよそ9～10m（造成後10～11.1m）</p> <p>津波ハザードマップ印刷部分は点線枠内部のみで、枠外の部分はデジタル地図で補完</p>
<p>神奈川県による新たな浸水予測図（平成24年3月公表）をもとに作成</p>  <ul style="list-style-type: none"> 10.0m以上 8.0m以上10.0m未満 5.0m以上8.0m未満 4.0m以上5.0m未満 3.0m以上4.0m未満 2.0m以上3.0m未満 1.2m以上2.0m未満 0.5m以上1.2m未満 0.5m未満 <p> E E 3階部分まで浸水する深さです。 D D 2階部分まで浸水する深さです。 C C 1階天井をこえて浸水する深さです。 B B 胸までつかる深さです。 A A 膝まで浸かる深さです。人命に影響するおそれがあります。 A 自由が奪われ、歩く速さが遅くなります。 </p> <ul style="list-style-type: none"> 建設中 第1次緊急輸送道路 建設中 第2次緊急輸送道路 緊急交通路指定想定路 	

4) 洪水による浸水

神奈川県が平成 21 年（2009 年）に告示した滑川水系滑川浸水想定区域図によると、現在地では、河川整備の目標とする降雨（1 時間最大雨量：74mm）の場合、浸水は想定されていません。また、神奈川県が平成 30 年（2018 年）に告示した境川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）によると、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）は、想定し得る最大規模の降雨（24 時間積算雨量：632mm）の場合、0 m～3.0m未満（区画整理事業後は 0m～1.5m程度）の浸水が想定されています。ただし、滑川水系の浸水想定は、境川水系の想定とは異なり、想定し得る最大規模の降雨による浸水想定の見直しが済んでいないため、両者を比較することは難しく、参考までの比較とします。

表 洪水による浸水の想定

現在地	深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)
<p>【指定の前提となる降雨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 時間最大雨量 74mm（河川整備の目標とする降雨）（おおむね 30 年に 1 回程度におこる大雨） <p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水はないと想定されている。 	<p>【指定の前提となる降雨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 時間積算雨量 632mm（想定し得る最大規模の降雨）（大半の河川で年超過確率 1/1000 程度を上回る設定） (参考：1 時間積算降雨量：約 150mm（事務局算出)) <p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地の大半が 0.5m～3.0m未満（区画整理事業後は 0m～1.5m程度）の浸水が想定されている。
<p>滑川水系滑川浸水想定区域図</p>  <p>凡例</p> <p>浸水した場合に想定される水深(ランク別)</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.5m未満の区域 0.5～1.0m未満の区域 1.0～2.0m未満の区域 2.0～5.0m未満の区域 5.0m以上の区域 浸水想定区域の指定の対象となる水位情報周知河川 	<p>境川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）</p>  <p>凡例</p> <p>浸水した場合に想定される水深(ランク別)</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.5m未満の区域 0.5～3.0m未満の区域 3.0～5.0m未満の区域 5.0～10.0m未満の区域 洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川 行政界

5) 内水氾濫による浸水

鎌倉市洪水・内水ハザードマップによると、現在地では、内水氾濫による浸水は想定されていませんが、御成交番の北側に内水はん濫浸水想定区域が見られます。深沢地域整備事業用地（行政施設用地）では、内水氾濫による浸水は想定されていません。

表 内水氾濫による浸水※⁶の想定（鎌倉市洪水・内水ハザードマップ）

現在地	深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)
<p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内水氾濫による浸水は想定されていない。 ・御成交番の北側が内水はん濫浸水想定区域に含まれている。 	<p>【浸水想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内水氾濫による浸水は想定されていない。
<p>鎌倉市洪水・内水ハザードマップ</p>  <p> 内水はん濫浸水想定区域 市民からの意見による道路冠水箇所 河川 (..... 暗きよ部) </p>	<p>鎌倉市洪水・内水ハザードマップ</p>  <p> 内水はん濫浸水想定区域 市民からの意見による道路冠水箇所 河川 (..... 暗きよ部) </p>

※6 内水氾濫による浸水：主要な河川に合流する中小河川・水路や下水道が1時間最大雨量78.5mm（平成16年10月9日の降雨と同規模）により雨水の排水能力を超えた場合に予想される浸水区域を示しています。

2. 地震及び洪水への対応

1) 被害の想定

①地震（津波による浸水）の概要と被害予想

神奈川県地震被害想定調査（平成 27 年 3 月）による地震の被害の概要は次ページの表のとおりです。想定条件は、冬季の平日、発生時刻は 18 時、風速・風向は、気象観測結果に基づく地域ごとの平均とされています。ただし、津波による人的被害の想定に当たっては、津波から避難する際に条件が厳しい平日深夜（午前 0 時）発災を条件としています。

相模トラフ沿いの最大クラスの地震が発生した場合、建物被害は全壊が 19,160 棟、死者 13,940 人、避難者数 116,630 人（1～3 日）と想定されています。

表 本市の地震災害想定被害^{※7}

(出典：神奈川県地震被害想定調査(平成27年3月))

		都心 南部 直下 地震	三浦 半島 断層群 の地震	神奈川 県西部 地震	東海 地震	南海 トラフ 巨大 地震	大正型 関東地震	元禄型 関東地震	相模トラ フ沿いの 最大クラ スの地震	津波による被害想定(参考)			
										慶長型 地震	明応型 地震	元禄型関 東地震と 国府津一 松田断層 帯の連動 地震	
モーメントマグニチュード(Mw)		7.3	7.0	6.7	8.0	9.0	8.2	8.5	8.7	8.5	8.4	8.3	
建物被害	全壊棟数(棟)	720	1,080	70	1,840	3,250	13,400	15,000	19,160	4,470	4,220	2,770	
	半壊棟数(棟)	4,740	6,050	200	1,680	1,520	12,880	13,320	12,100	2,260	2,380	2,130	
火災被害	出火件数(箇所)	*	*	0	0	0	60	60	90	—	—	—	
	焼失棟数(棟)	520	20	0	0	0	7,850	7,850	10,990	—	—	—	
死傷者数	死者数(人)	30	50	110	460	800	2,530	8,550	13,940	1,070	1,030	5,200	
	重傷者数(人)	40	50	*	*	*	370	370	510	*	*	20	
	中等傷者数(人)	400	480	10	20	20	2,510	2,520	3,310	10	20	100	
	軽傷者数(人)	610	740	20	20	20	2,810	2,820	3,520	10	20	100	
避難者数	1~3日目(人)	9,310	13,290	840	10,610	14,210	97,280	100,940	116,630	—	—	—	
	4日目~1週間後(人)	9,310	10,790	840	10,610	14,210	97,280	100,940	116,630	—	—	—	
	1か月後(人)	9,310	10,790	480	7,520	11,300	77,660	81,430	99,990	—	—	—	
要配慮者	避難者	高齢者数(人)	1,270	1,820	110	1,450	1,940	13,300	13,810	15,950	—	—	—
		要介護者数(人)	370	530	30	430	570	3,890	4,040	4,670	—	—	—
	断水 人口	高齢者数(人)	0	1,060	0	0	0	18,250	18,250	20,880	—	—	—
		要介護者数(人)	0	310	0	0	0	5,340	5,340	6,110	—	—	—
	家屋 被害	高齢者数(人)	2,100	2,520	110	1,360	1,860	12,320	13,130	15,740	—	—	—
		要介護者数(人)	610	740	30	400	540	3,610	3,840	4,610	—	—	—
帰宅 困難者	直後(人)	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	—	—	—	
	1日後(人)	0	0	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	—	—	—	
	2日後(人)	0	0	0	0	0	11,810	11,810	11,810	—	—	—	
自力脱出困難者(要救出者)(人)		70	90	0	0	0	2,140	2,140	3,500	—	—	—	
ライフライン	上水道	断水人口(直後)(人)	16,030	29,680	0	0	*	133,430	133,430	152,680	—	—	—
	下水道	機能支障人口(人)	6,250	6,260	1,240	1,250	1,280	18,170	18,170	29,550	—	—	—
	都市ガス	供給停止件数(戸)	0	0	0	0	0	65,960	65,960	65,960	—	—	—
	LPガス	供給支障数(戸)	160	160	0	0	0	210	210	340	—	—	—
	電力	停電件数(軒)	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	—	—	—
	通信	不通回線数(回線)	64,430	64,510	64,360	66,420	68,010	65,700	66,000	66,740	—	—	—
エレベーター停止台数(台)		210	210	*	*	*	210	210	220	—	—	—	
災害廃棄物量(万トン)		32	37	2	35	57	340	367	464	—	—	—	
従来の定義の 負傷者数	重傷者数	190	240	*	10	10	1,760	1,760	2,410	10	10	70	
	軽傷者数	850	1,040	20	30	30	3,930	3,940	4,930	20	20	140	

※7 * : わずか(計算上0.5以上、10未満) / — : 想定値なし

表 本市の地震災害想定被害に対する津波予測^{※8}

	都心 南部 直下 地震	三浦 半島 断層群 の地震	神奈川 県西部 地震	東海 地震	南海 トラフ 巨大 地震 ^{※9}	大正型 関東地震 タイプ	元禄型 関東地震	相模トラ フ沿いの 海溝型 地震		慶長型 地震	明応型 地震	元禄型関 東地震と 国府津一 松田断層 帯の連動 地震	西相模 灘地震
								西側	中央				
本市最大津波高さ(m) ^{※9}	—	—	4.5	3.9	10.0	7.2	9.2	14.5	12.6	10.2	10.3	9.1	1.8
由比ガ浜の津波高さ(m)	—	—	4.4	3.9	—	6.5	7.9	13.0	11.4	10.2	10.3	7.7	1.8
由比ガ浜の津波到達時間	—	—	14分	67分	—	8分	12分	14分	26分	77分	56分	8分	37分
現在地敷地への津波到達の有無	—	—	無	無	無	無	無	△	×	×	×	無	無

※8 凡例: 「—: 本市における津波の高さ等の明記なし」、「無: 到達しない」、「△: 現在地至近まで浸水」、「×: 敷地内に浸水の可能性有り」(神奈川県作成の地震ごとの津波浸水予想図参照)

※9 元禄型関東地震は小田嶋東側地区と七里ガ浜地区、慶長型地震・明応型地震・東海地震・西相模灘地震は由比ガ浜地区、元禄型関東地震と国府津一松田断層帯の連動地震は小田嶋東側地区、それ以外は七里ガ浜地区が最大津波高さとなっている。

※10 南海トラフ地震は、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ(内閣府ホームページ)における都府県別市町村別最大津波高一覧表<満潮位>を参照

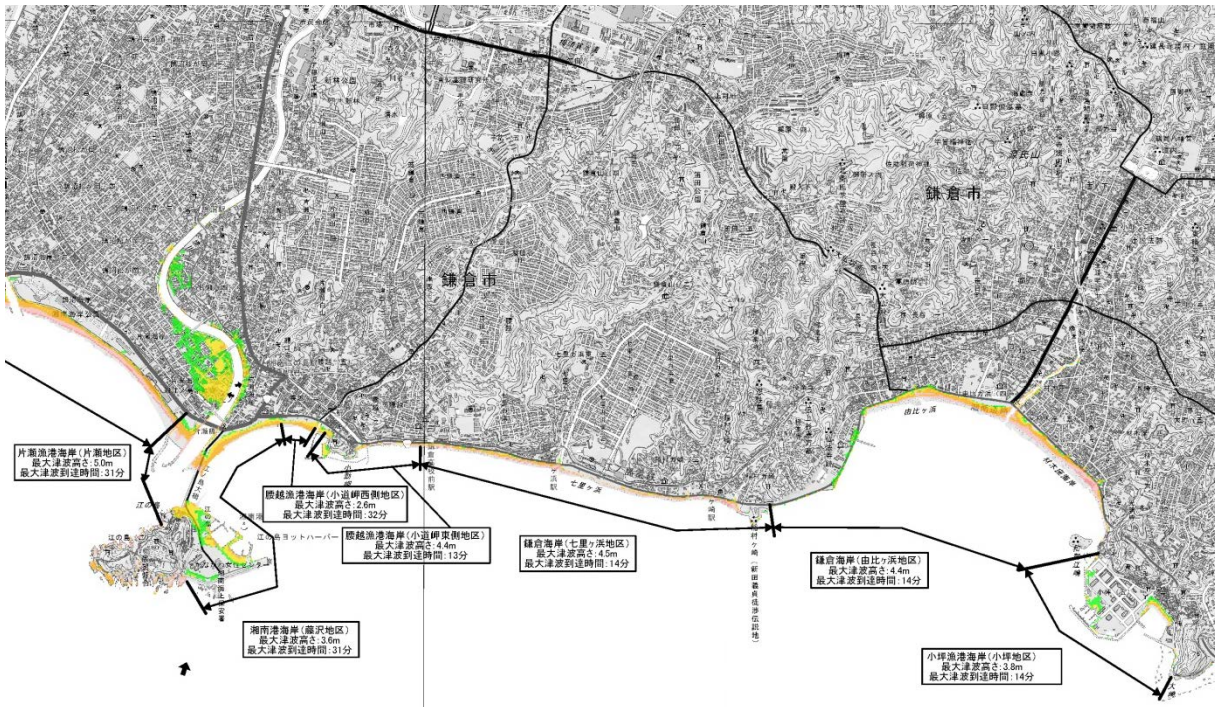


図 津波浸水予想図 神奈川県西部地震
(平成 27 年 3 月神奈川県公表 (同年 6 月一部修正))

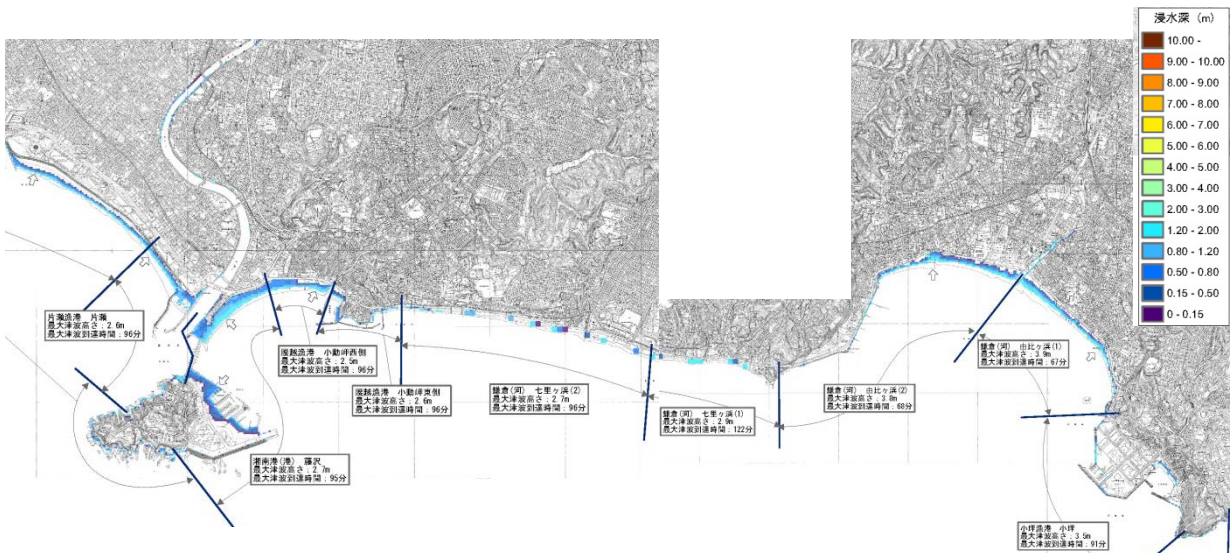
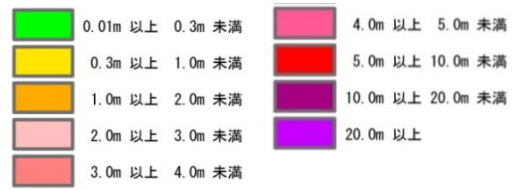


図 津波浸水予想図 東海地震
(平成 24 年 3 月神奈川県公表)

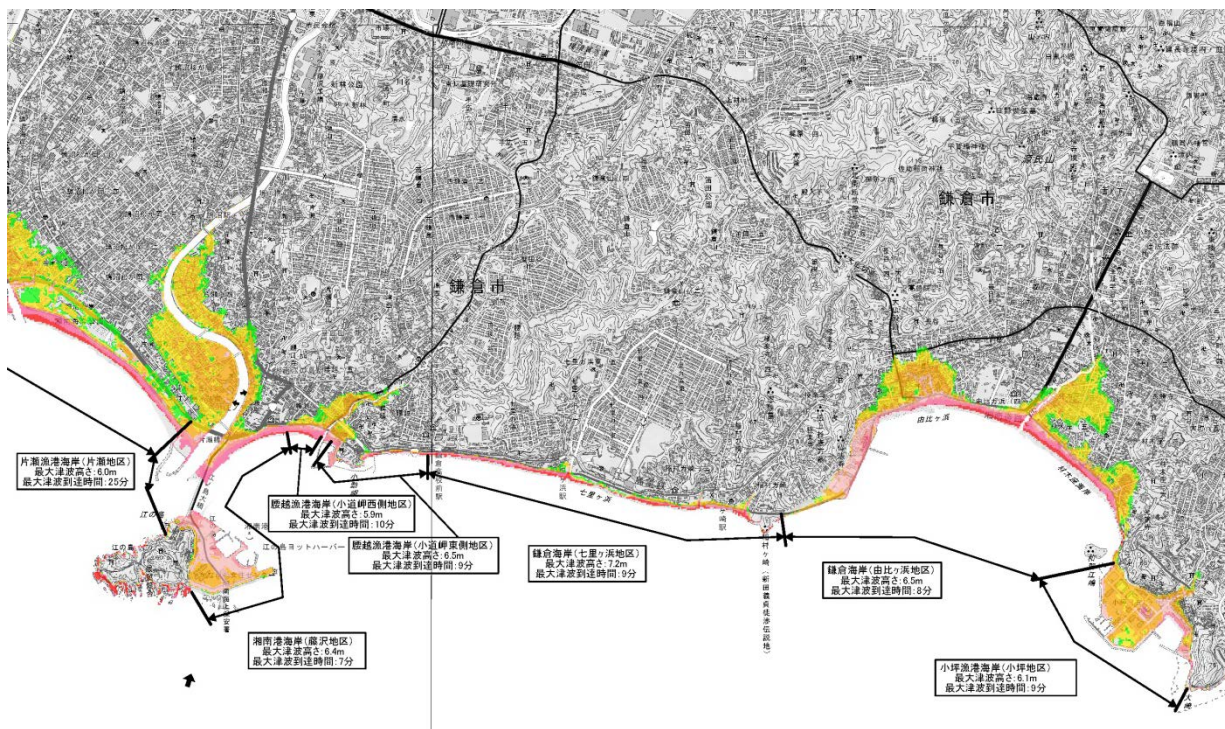


図 津波浸水予想図 大正型関東地震タイプ
(平成 27 年 3 月神奈川県公表 (同年 6 月一部修正))

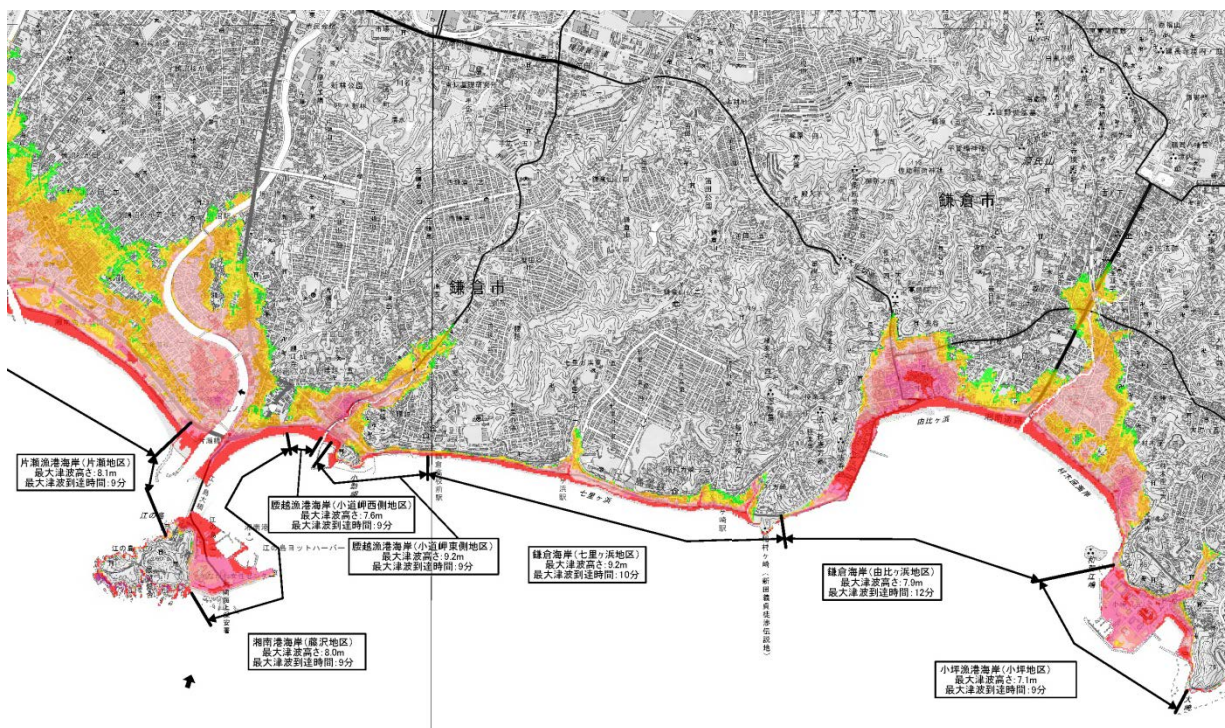


図 津波浸水予想図 元禄型関東地震
(平成 27 年 3 月神奈川県公表 (同年 6 月一部修正))



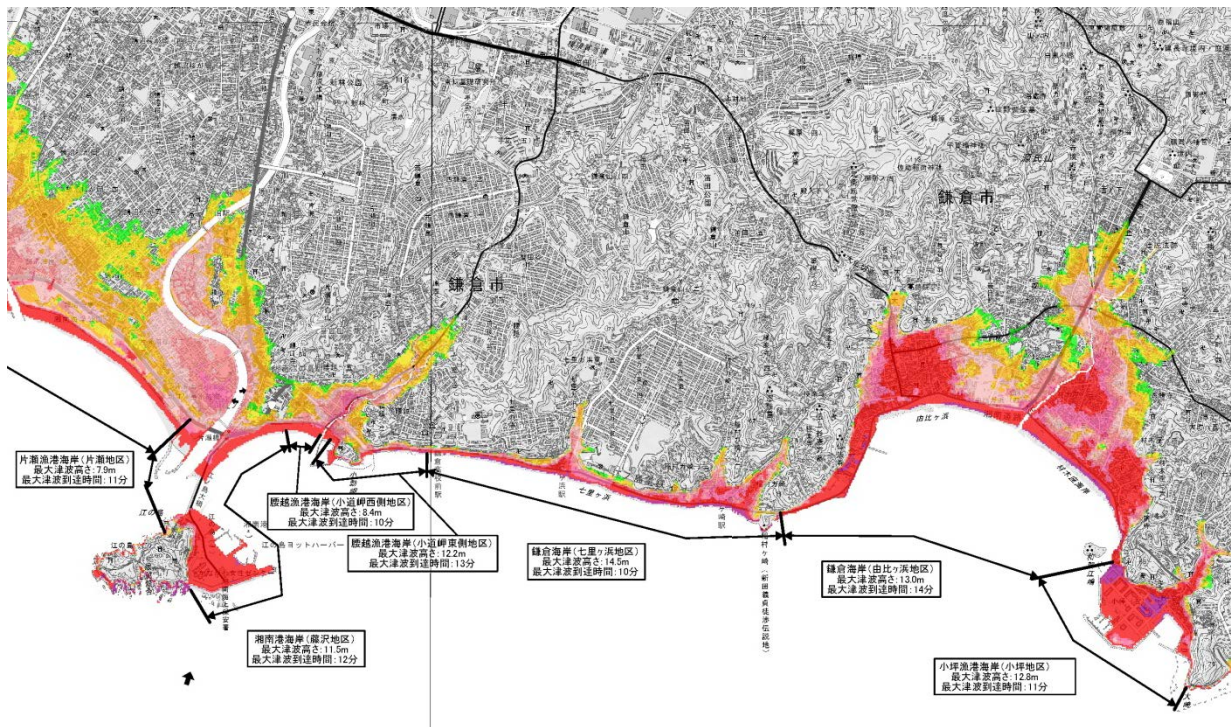


図 津波浸水予想図 相模トラフ沿いの海溝型地震 (西側モデル)
 (平成 27 年 3 月神奈川県公表 (同年 6 月一部修正))

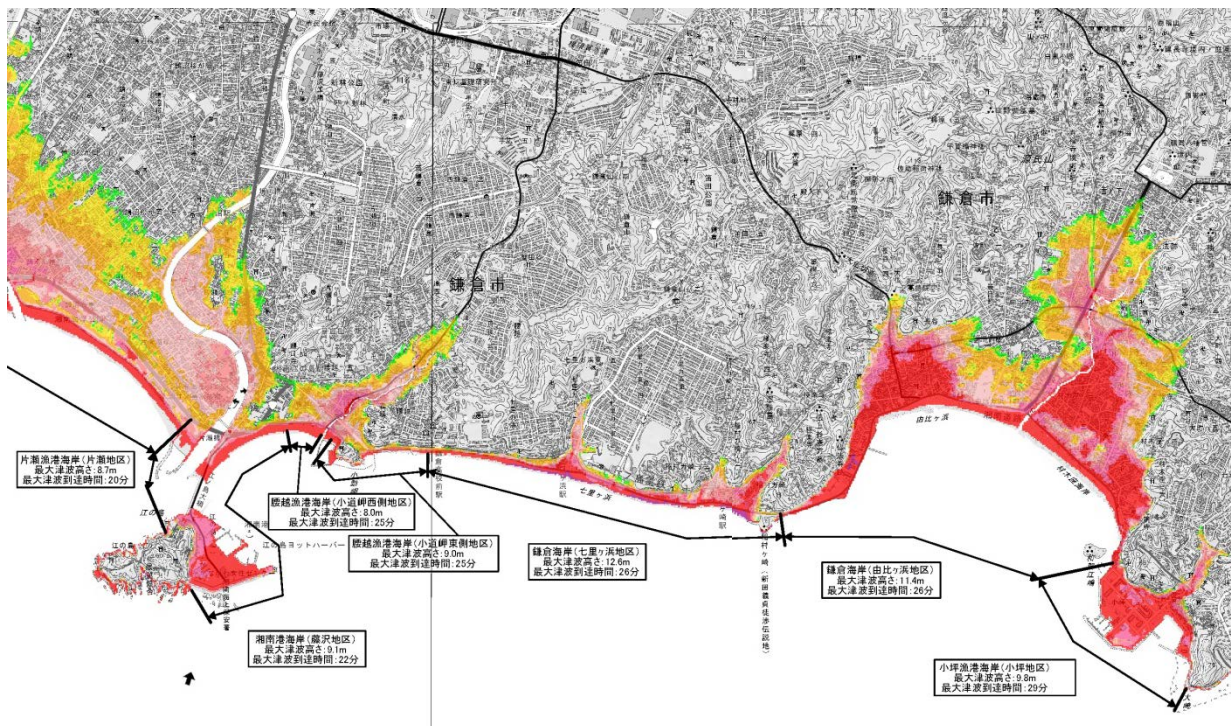


図 津波浸水予想図 相模トラフ沿いの海溝型地震 (中央モデル)
 (平成 27 年 3 月神奈川県公表 (同年 6 月一部修正))



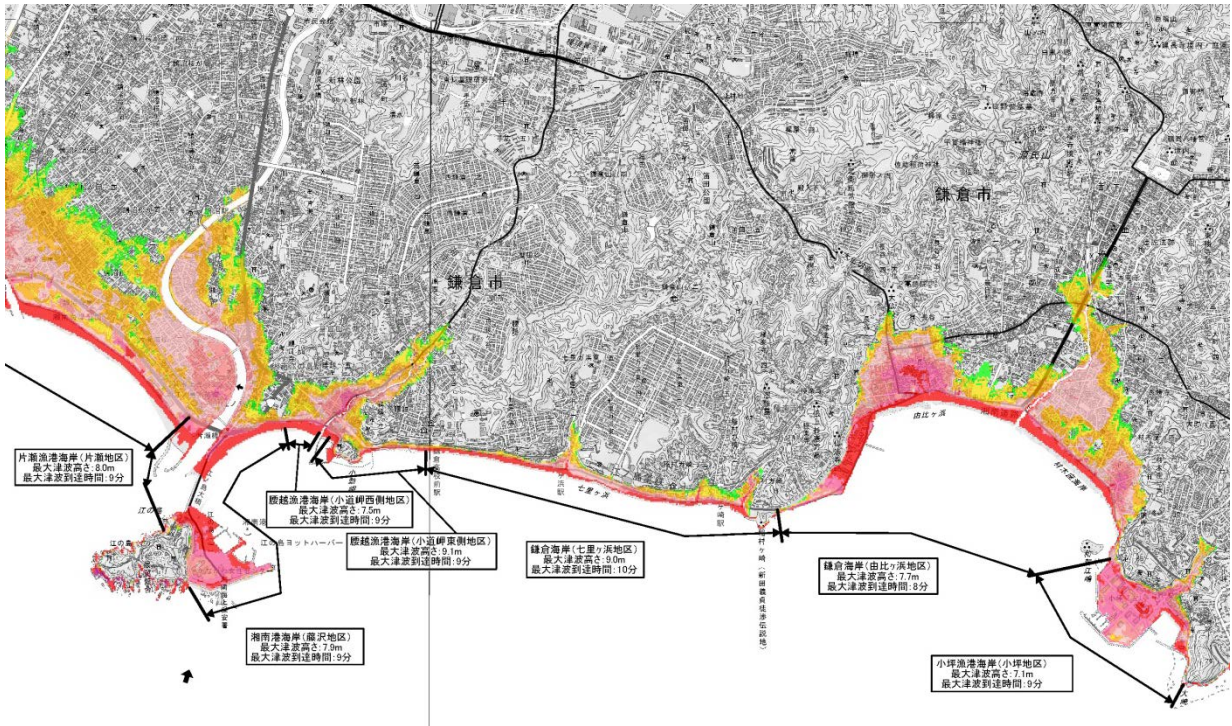


図 津波浸水予想図 元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震
(平成 27 年 3 月神奈川県公表 (同年 6 月一部修正))

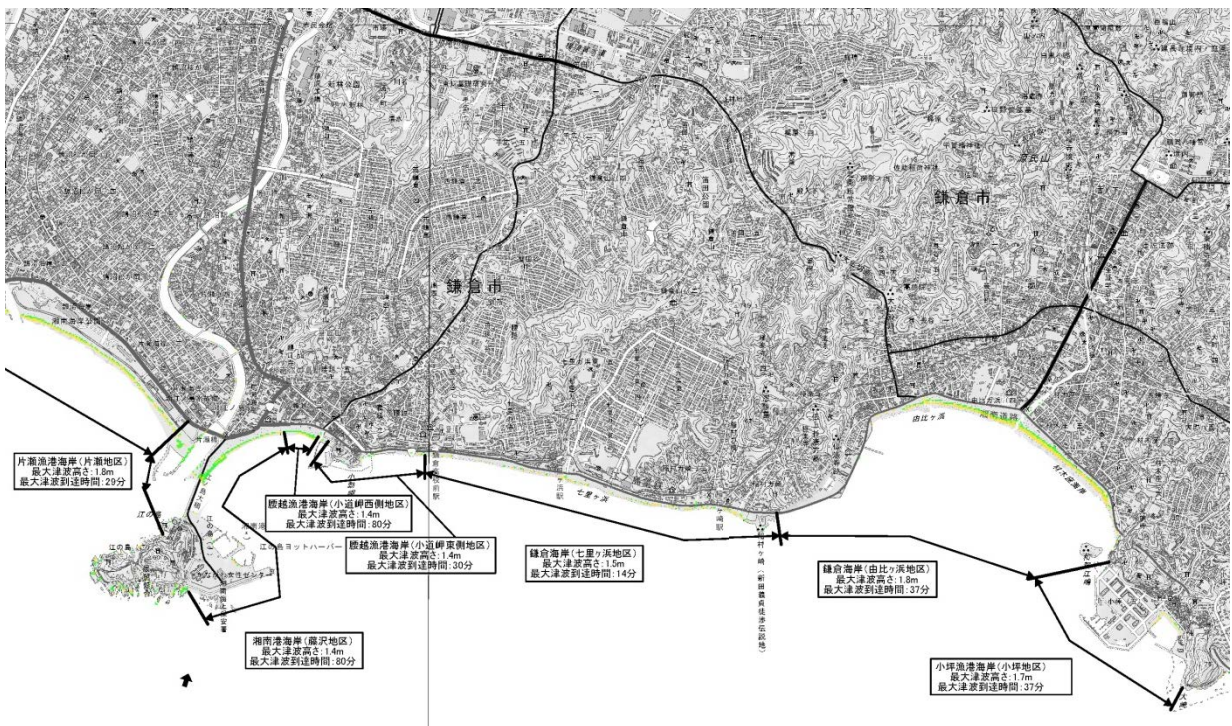


図 津波浸水予想図 西相模灘地震
(平成 27 年 3 月神奈川県公表)



②洪水による浸水の概要と被害予想

神奈川県が平成 30 年（2018 年）に告示した境川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）における想定し得る最大規模の降雨では、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）の敷地の大半が最大浸水深 0.5～3.0m、浸水継続時間^{※11}は 12 時間未満と想定されています。また、洪水による浸水の被害想定は、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域（境川水系洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流））として、大船や手広等において洪水氾濫流における家屋の倒壊危険があると想定されている箇所がありますが、深沢地域整備事業用地付近には想定がありません。

※11 浸水継続時間とは、氾濫水到達後、屋外への避難が困難となり孤立する可能性がある浸水深 0.5m に達してから、その水深を下回るまでにかかる時間を示すものです（神奈川県ホームページ「河川の氾濫による洪水浸水想定区域図・洪水浸水想定区域図に関する Q&A」<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/p1039490.html>）。

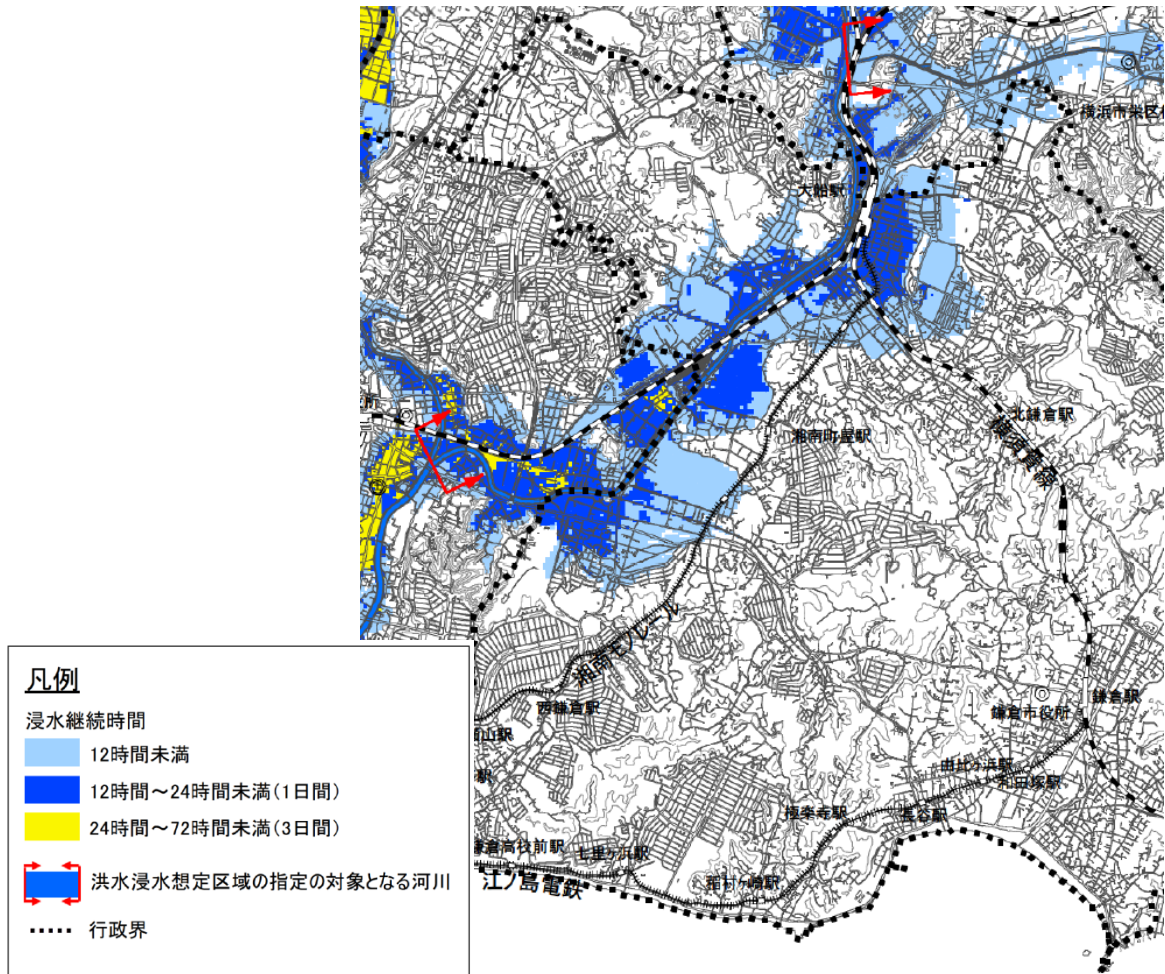


図 境川水系洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)(平成 30 年 1 月神奈川県告示)

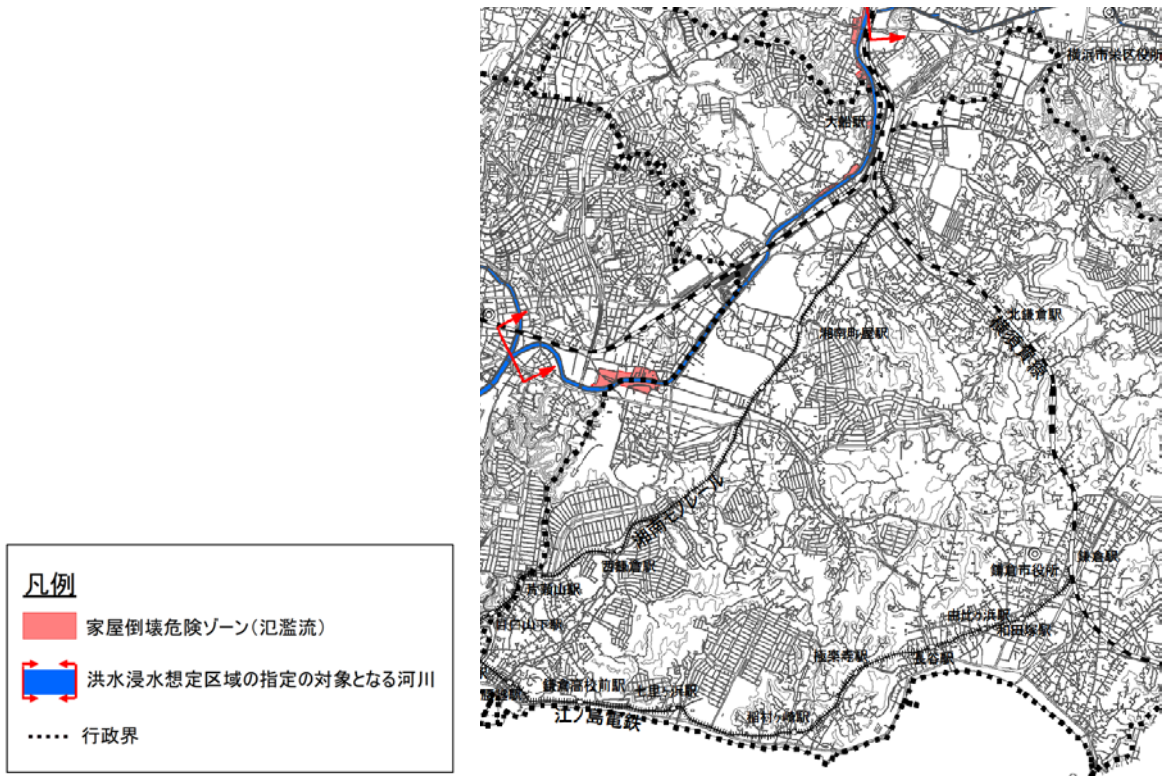


図 境川水系洪水浸水想定区域図(家屋倒壊等氾濫流想定区域氾濫流)(平成 30 年 1 月神奈川県告示)

2) 発災後の対応フロー

①地震・津波対策

地震災害の場合、本市の地域防災計画では応急対策の初動活動として、発災状況の情報収集や庁舎等の防護措置、災害対策本部の設置等が定められています。

平成 27 年 5 月 13 日午前 6 時 13 分ごろに発生した宮城県沖を震源とする地震では、震度 4 以上を観測した太平洋沿岸の青森、岩手、宮城 3 県 21 市町村の中で、特別本部を立ち上げるまでに約 30 分かかった自治体もあったと報告されています^{※12}。本市においても現在地至近に浸水が及ぶ想定である地震による津波の由比ガ浜海岸への津波の到達時間は最短で 14 分（相模トラフ沿いの海溝型地震（西側）、最長で 77 分（慶長型地震）と想定されており、災害対策本部の設置に先駆けて避難勧告・指示・誘導が発令されますが、特に勤務時間外では津波に対する庁舎等の防護措置が間に合わない可能性があります。また、地震発生直後は瓦礫や余震などの影響により、避難や初動活動に支障が出る可能性も想定されます。

このように、地震・津波の発災時は初動活動に掛ける時間的猶予があまりないことから、被災後の避難所の開設や復旧活動に円滑に移行するためには、本庁舎の津波による被災の可能性をなくし、初動活動後の職員配備や広域応援要請、自衛隊災害派遣要請等の早急な対応を可能とする機能を有することが重要となります。

東日本大震災では、自衛隊の大規模災害派遣開始までに約 3 時間を要したことから^{※13}、自衛隊災害派遣による救助開始までに数時間かかることが想定されます。

東日本大震災時の自衛隊の派遣までの初動対応^{※13}

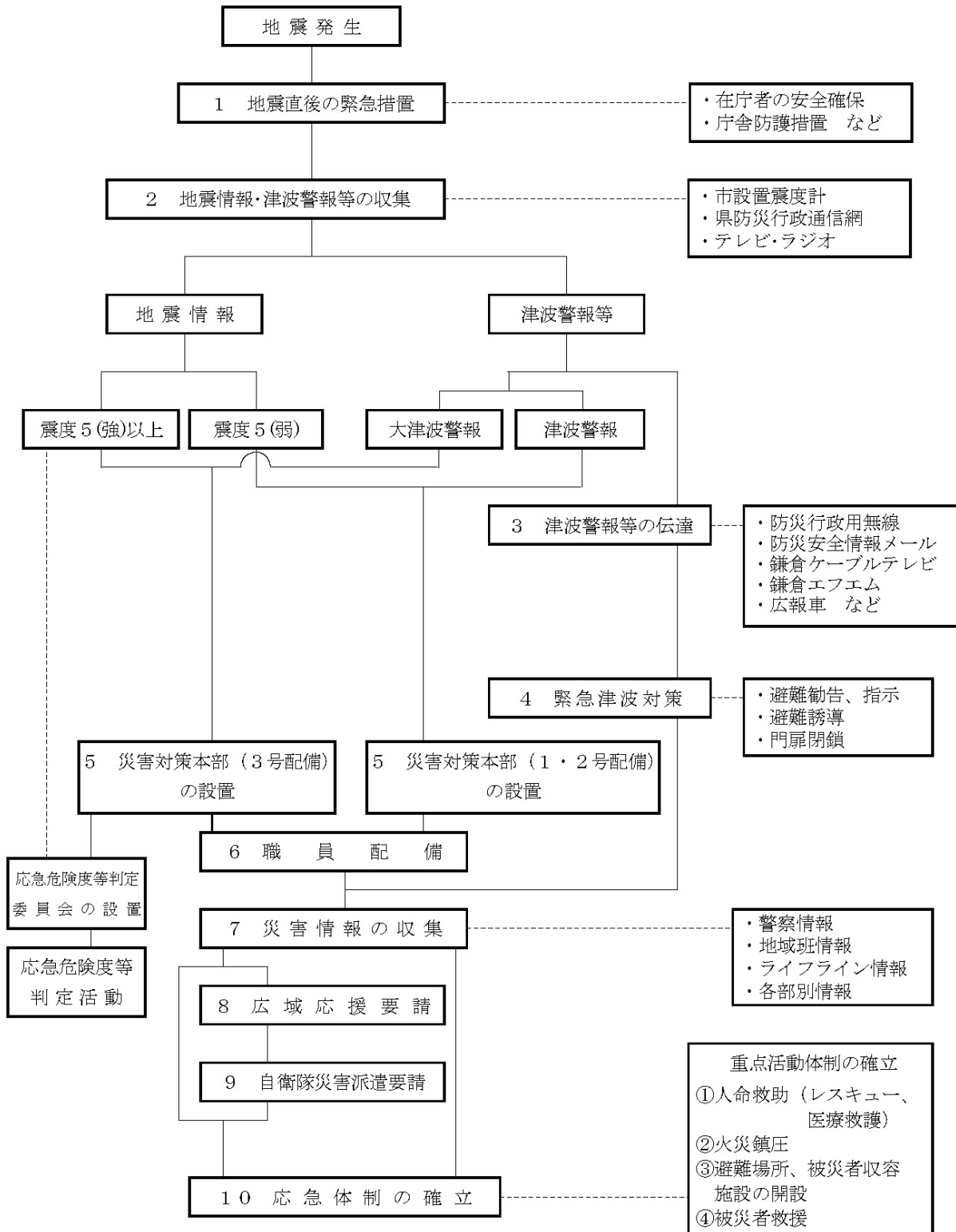
14 時 50 分	防衛省災害対策本部を設置
15 時 30 分	第 1 回防衛省災害対策本部会議を開催
18 時 00 分	大規模災害派遣の開始
19 時 30 分	原子力災害派遣の開始

※12 産経新聞記事（平成 27 年 5 月）<https://www.sankei.com/region/news/150515/rgn1505150074-n1.html>

※13 東日本大震災-宮城県の 6 か月間の災害対応とその検証-（宮城県、平成 24 年 3 月）

<https://www.pref.miyagi.jp/site/kt-kiroku/kt-kensyou.html>

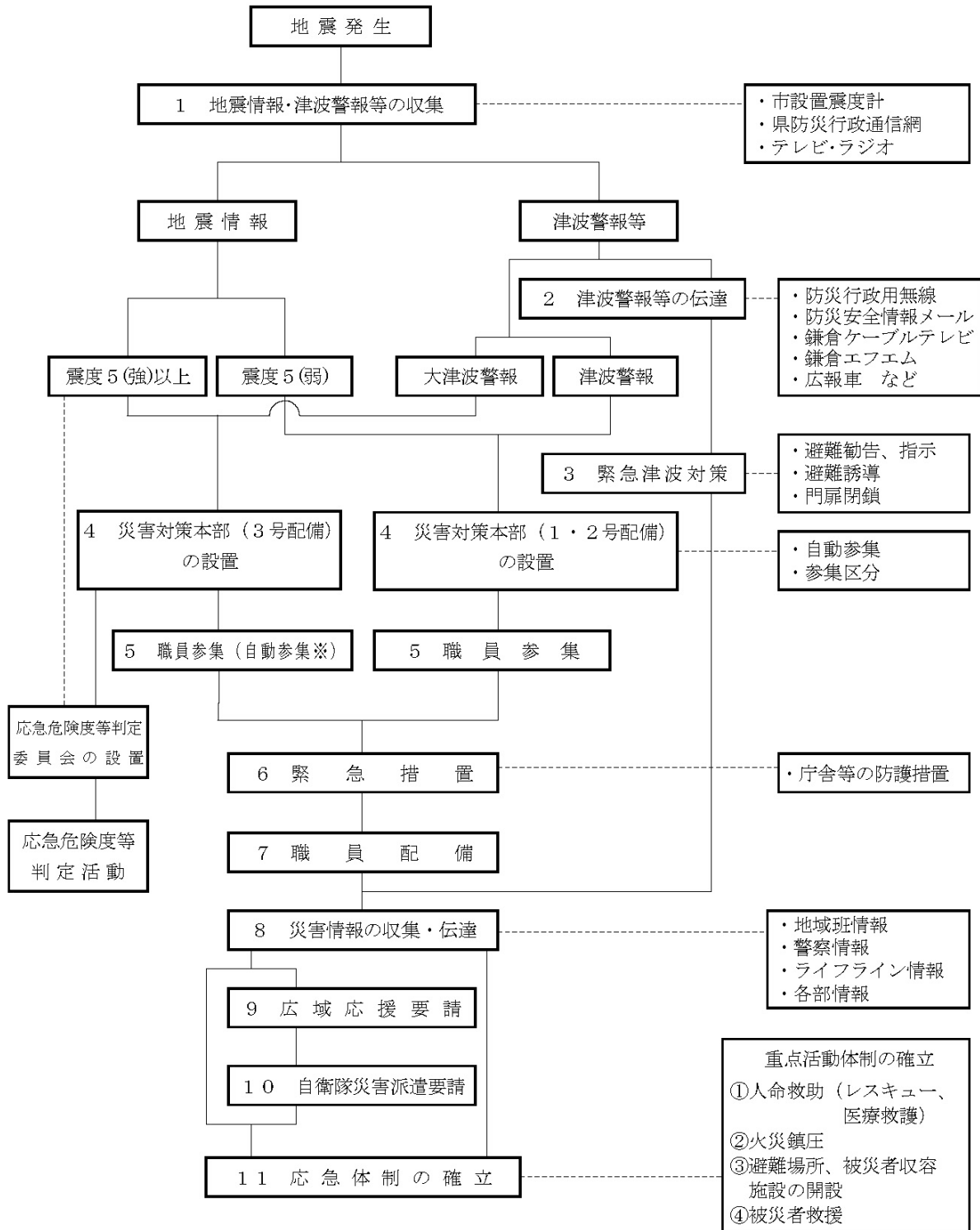
(ケース 1 : 勤務時間内に地震が発生した場合)



勤務時間内の地震発生対応フロー

(出典：鎌倉市地域防災計画、平成 25 年 2 月)

(ケース 2 : 勤務時間外に地震が発生した場合)



※職員の自動参集基準については、鎌倉市職員の初動時非常配備要綱に基づきます。

勤務時間外の地震発生対応フロー

(出典：鎌倉市地域防災計画、平成 25 年 2 月)

②風水害対策

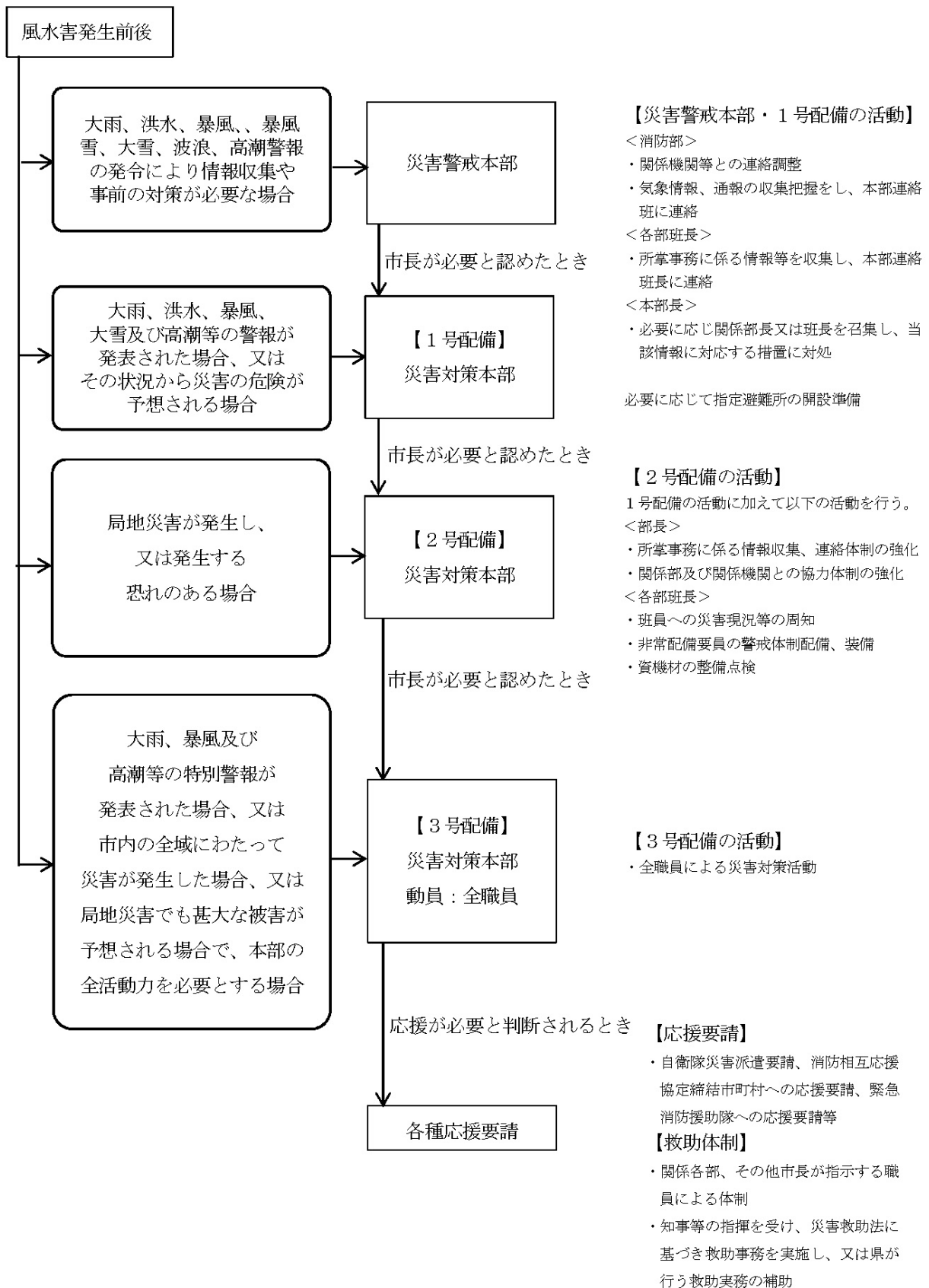
風水害の場合、本市の地域防災計画では応急対策の初動活動として、風水害の発生前後から警報の発令状況や局地災害による被害の予想等に応じて非常配備体制（1号・2号・3号）をとることとしており、必要に応じて自衛隊派遣要請や災害時相互応援協定締結市町村への応援要請を行うこととしています。

平成30年7月6日に発生した西日本豪雨では、岡山県や広島県をはじめとする広範囲で甚大な被害を及ぼし、1か月以上にわたって自衛隊による人命救助や瓦礫等処理、行方不明者の捜索活動が行われました。京都市では氾濫危険水位に達してから自衛隊に水防活動（堤防補強のための土嚢積み）に係る災害派遣要請を行い、自衛隊による水防活動は5～6時間程度で水防作業が完了しており、洪水による浸水まで時間的猶予のある地域では、早めの救援、支援を受けることができました^{※14}。

これらのことから、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）は洪水による浸水が想定されていますが、地震発生から被災までに時間的猶予のない津波による浸水とは異なり、越水や堤防の破堤が生じてから本庁舎の浸水に至るまでに時間的猶予があると同時に、浸水発生前から予報等で情報を収集することによって事前に避難対策や救助・救援対策を行う余地もあると考えられます。そのため、本庁舎は防災拠点としての安全性や救援・受援のための機能を十分に確保することで、災害予防や発災後の円滑な初動対応による効果的な減災・救助の実施の可能性が高まるものと考えられます。

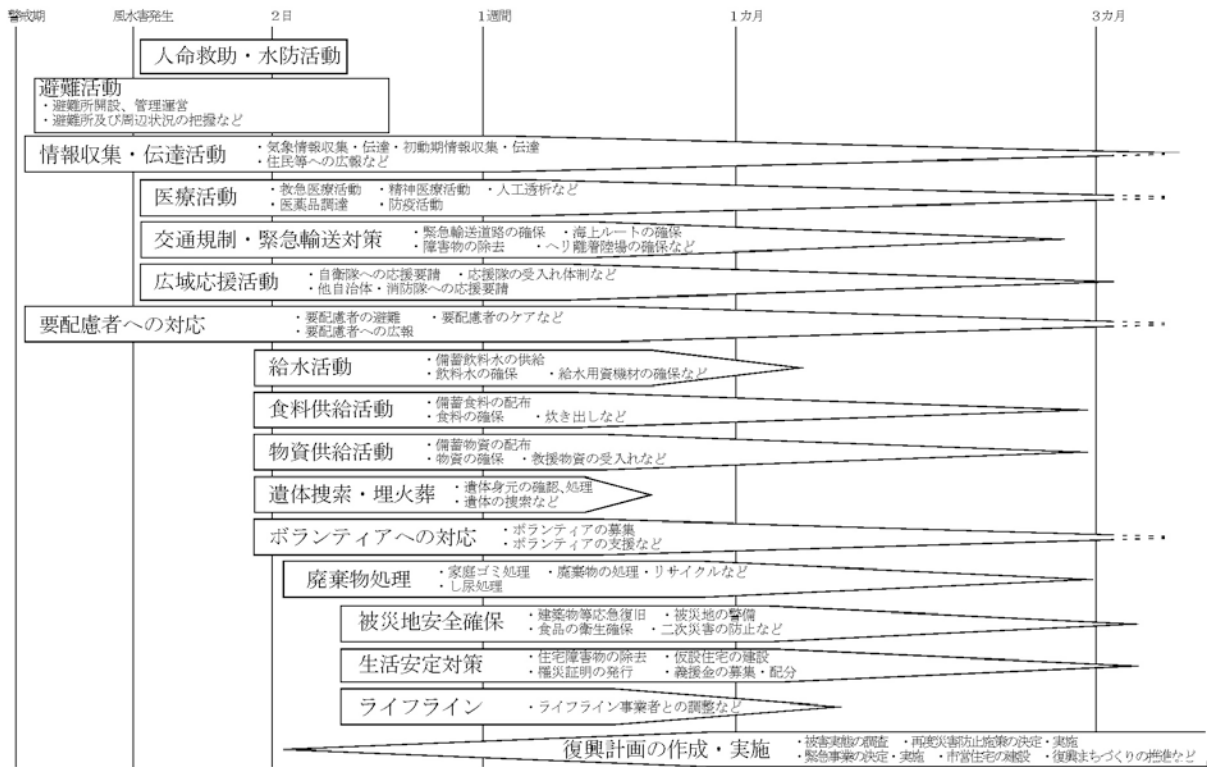
※14 内閣府 平成30年7月豪雨非常災害対策本部会議（第15回会議資料）

<http://www.bousai.go.jp/updates/h30typhoon7/h30typhoon7/taisakukaigi.html>



風水害による初動活動の流れ

(出典：鎌倉市地域防災計画、平成25年2月)



災害対策本部活動時系列整理

(出典：鎌倉市地域防災計画、平成 25 年 2 月)